

公表

事業所における自己評価総括表【放課後等デイサービス】

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス 星の音			
○保護者評価実施期間	令和7年3月1日 ～ 令和7年4月12日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数)	20
○従業者評価実施期間	令和7年3月25日 ～ 令和7年4月12日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	プログラムが偏ったり同じものが続かないように過去のプログラムを振り返りながら立案している。	暖かくなってきたら課外活動の充実化を図りたい。
2	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	就労支援事業所や障がい者職業センターなどと密に情報共有や日々、モニタリングを実施している。お子さんが安心して就労移行に移れるような環境を整えている。	札幌市内の広い範囲で就労支援事業所と繋がりを持ち多くお子さんや親御さんが安心して就労に移れるように取り組みたい。
3	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	星槎国際高校に併設されたデイなので高校の先生や担任との情報共有がしやすい。	星槎高校だけではなく他の学校から来ているお子さまの情報共有を実施している。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	建物の構造上、バリアフリー化は難しい。	身体障がいへの対応は困難だが集団生活が苦手なお子さんに對して別の教室を提供している。
2	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	高校生が対象のデイのため児童会館へ行く機会はそこまでない。	地域交流を目的として今後、検討していきたい。
3	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	特別トラブルがあれば実施しているがそれ以外は、打ち合わせする機会が減ってしまった。	児発管、常勤だけではなく非常勤も含めた打ち合わせを増やしていきたい。